

平成 19 年 1 月 26 日
東京都板橋区小豆沢 3-6-10

オリエンタル酵母工業 第 3 四半期連結決算発表

売上高は 462 億 16 百万円（前年同四半期比 2.6%増）で過去最高を更新し、
経常利益も 18 億 33 百万円（前年同四半期比 2.1%増）で増収増益に

平成 19 年 3 月期 第 3 四半期決算

オリエンタル酵母工業株式会社（本社：東京都板橋区、社長：内藤利邦）の平成 19 年 3 月期 第 3 四半期までの業績は増収増益となりました。

食品部門はパンソフト等の提案の場としての P&B センターの活用を一層加速し、研究開発体制の強化と積極的な新製品開発を進めると共に、更なる拡販に注力いたしました。また、バイオ部門は、組換え蛋白を始めとした新製品開発や、バイオイノベーションセンターによるラボラトリーアニマルサイエンス事業の拡充を進め、更には、食品分析事業やバイオマーカー探索事業、発熱性物質試験等の新規事業も積極的に推進してまいりました。

売上高につきましては、食品部門はイーストやフラワーペースト類、マヨネーズ・総菜など製パン・製菓用資材や、健康食品市場を主体としたミネラル酵母類が伸長し、前年同四半期を上回りました。バイオ部門は、実験動物関連や受託試験・受託飼育等の研究支援事業が順調に推移し、需要低迷が続いていた養魚用飼料も前年同四半期並みとなりました。一方、生化学・免疫製品やバイオニュートリショナル製品は前年同四半期を下回りましたが、トータルの売上高は前年同四半期を上回りました。

その結果、当第 3 四半期の業績は売上高が 462 億 16 百万円（前年同四半期比 2.6%増）と増収で過去最高を更新し、経常利益も 18 億 33 百万円（前年同四半期比 2.1%増）と増益でした。

平成 19 年 3 月期通期連結業績予想

引き続き営業体制の強化と拡販に努めると共に、省エネ・省力化投資やトータル プロダクティブ マネジメントによる企業革新活動（TPM 活動）による製・販・管のトータルローコスト施策を推進してまいります。

通期の業績予想は公表通りで、売上高は 623 億円（前期比 3.7%増）で前期に引き続き過去最高を更新する見込みです。また、経常利益は 26 億 40 百万円（前期比 1.2%増）、当期純利益は 15 億円（前期比 0.4%増）と増収増益の見込みであります。

以上